

なぜ教師を目指すのか？

溝口 祐紀 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 南島 永衣子

キーワード:GTA, 教員志望理由, 境遇

1. 緒言

例年、教員採用試験の合格発表が、9月から11月にかけて全国的に行われる。学生は、当然、悲喜交々となるのであるが、その後「本当に4月から教壇に立って子どもたちを指導できるのだろうか」と不安な精神状態に陥る。以前の論文に、教員になることに何が不安なのか学生に話を聞いたものがあつた。

私は、就職するにあたって、志望している職業に悩みを抱えてまで教員を志望する学生に疑問を感じた。そのため、教員志望に影響を与えたことについて、興味を持ち、卒業研究のテーマとして設定した。

2. 研究方法

対象者には半構造化インタビューを実施し、グランデッド・セオリー・アプローチ(GTA)を用いて質的に分析を行った。

1) 調査対象

B大学、学校スポーツコースに所属する8名を選出し、3つのグループに分けた。第1グループの3名をカテゴリーの生成、第2グループの3名をカテゴリーの修正、第3グループの2名をカテゴリーの飽和、とした。

2) 分析の手続き

①トピックの抽出：それぞれの Inf. が教員志望理由に関わる事象と位置づけるトピックの部分を抽出した。②切片化：抽出

したトピックで、それぞれが意味を持つと捉えることのできる部分にアンダーラインを引いた。③コーディング：アンダーラインを引いた部分を抽出し、その内容を表す単語や短い語句(コード)を付した。④カテゴリーの生成：コーディングされたデータを比較し、類似したカテゴリーをまとめて新たなコードを付してカテゴリーグループとした。⑤カテゴリーの精緻化：カテゴリーやカテゴリー同士の関連に基づき再生成を繰り返した。⑥仮説の生成：⑤の手続きを進める中から、発展継承可能な仮説を生成し執筆に入った。

3. 結果

最初に、関連した発話に対して、それぞれに371個のコードをつけた。次にそのコード名を整理、精緻化し27個のカテゴリーを作成した。続いて、これらのカテゴリーの関連に基づいて再生成を繰り返した結果、15個のカテゴリーグループが生成された。

5. まとめ

過去の経験で芽生えた執着への解消欲求、自身の境遇を子供への願望として、託す思いが教員を志望した要因になっているという仮説的知見を導き出すことが出来た。

引用・参考文献

西条剛央(2007) ライブ講義質的研究とは何か. ベーシック編. 新曜社: 東京, pp1-242.